

グループ別域別対話会(タウンミーティング)でいただいたご意見と回答

R7.7.28 ふるさと案内人協会							
分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
子育て・教育・文化	1	文化財周辺環境の保全と景観について	小林	最近、道作古墳群の一部に白いフェンスが設置されていることに気が付き、非常に違和感を覚えました。周囲には古墳が存在していると思われる場所であり、地域の歴史や景観に配慮されていない印象を受けました。 「小林住みよいまちづくりの会」の活動を通じて、以前より古墳群の保全に関わってきましたが、今回のフェンス設置については心を痛めています。一部では、土地が業者に資材置き場として有償で提供されたのではないかという話も耳にしました。ただし、事実確認は取れておらず、推測であることを申し添えます。 苦情というよりは、市民活動の一環として、気付いたことを報告させていただく次第です。地域の景観や歴史資産を守るという観点からも、今後の対応にぜひご配慮いただけますようお願い申し上げます。	持ち帰って確認します。	当該土地は民地であり、土地所有者が変わったことから令和6年度に土地外周のフェンス設置と砂利敷がされたものです。古墳があることから、文化財保護法第93条の届出があり、古墳以外の敷地に砂利を敷き車両基地とすることが確認されました。市職員も現地を確認し、他に古墳に手をつける事がないと確認しています。	文化振興課
まちづくり	2	文化財周辺環境の保全と景観について	共通	市内を歩いている際に、あまりにも急激な変貌ぶりに絶句するような場面に何度も遭遇しました。今年も含め、昨年、一昨年と繰り返し歩いてきた中で、「このまま残していいいのだろうか」と感じる文化財の場所がいくつかありました。 もちろん、まちが変化していくことは自然なことであり、印西市が発展していくことは非常に喜ばしいことだと思っています。ただ、その変化がどのような方法で進められるかによって「どうすれば調和の取れたまちづくりができるのか」と考えています。	印西市の都市計画は、たしかに偏りがあるというご指摘には私も共感しています。千葉ニュータウン周辺では「40戸連たん制度」により住宅建設が進む一方、在来地区では原則として住居が建てられず、人口減少につながっている状況もあります。 また、太陽光施設やヤードに関しては、農地の区分によって設置しやすい地域があり、耕作放棄された畑地などが急速に太陽光パネルに変わっている実情も認識しています。かつて落花生畑だった別所のエリアなども、その例の一つです。 印西市の強みは、都市と自然が調和したまちにあると考えています。だからこそ、場所ごとにどういった施設がふさわしいのか、今一度見直していきたいと思っています。土地は私有財産ですので、地権者の合意形成には時間がかかりますが、それを丁寧に進めることで、より良い街を育てていけると信じています。 さらに、既存集落の魅力を守りながら、若い世代が「住みたい」と思えるまちづくりを進めることも大切です。「別所」のように子どもが増えてスクールバスの新設が必要になった地域もありますし、自然環境と都市機能のバランスが取れていれば、十分に可能性は広がると思っています。	—	文化振興課
子育て・教育・文化	3	文化財周辺環境の保全と景観について	共通	印西市の文化財や自然は、地域の歴史や暮らしの記憶を宿す大切な資源です。しかし、近年の宅地開発によって、宗甫地区の森のように、かつての豊かな自然が失われ、文化財も景観から切り離されてしまう例が増えています。庚申塔や掩体壕は残されていても、住宅地に囲まれたり、フェンスの中に閉じ込められたような状態では、本来の魅力が発信しづらく、地元住民としては強い違和感や寂しさを感じています。 このような変化は「後の祭り」であるという声もあり、市としては単なる保存に留まらず、文化・景観・観光を含めた調和ある方向性を打ち出してほしいと思います。それによって、来訪者にも「印西市にはこういう価値がある」と自信を持って伝えられるようになります。		—	資産経営課
子育て・教育・文化	4	文化の継承について	共通		最近感じていることは、「守ろう」とすると逆に守れなくなるということです。従来と同じ方法では継承が難しく、継承しようと思えば新たな形を作らなければなりません。 地域内の若い世代が担う仕組みはすでに機能しておらず、たとえば市内全域や他の地域から担い手を募るなど、新たな関わり方が必要です。現在、成田市・栄町と芸術祭の共同開催を進めており、千葉県からも期待をいただいており、芸術祭の中で神楽や獅子舞などを、これまでと違う形で披露する可能性も考えています。 ヒントとなった新潟の「大地の芸術祭」は、山間部の廃校や集落に地域文化を活かした展示を行い、多くの来訪者を呼び込んで経済活動にもつなげています。印西でも、やり方次第で文化を残すことが可能だと考えています。 市としては、現在補助金などで地元担い手の支援を行っていますが、「お金があっても人がいない」「忙しくて時間がない」といった課題があり、発想の転換が必要です。 印西大師の事例では、担い手の高齢化が進んでいる一方で、若い世代の市民の方の中では「印西大師トレイル」としてランニングイベントを実施するなど、新しい継承の形も生まれています。 これまで十分に活かされてこなかった地域資源を活用する取り組みの第1弾として、芸術祭というのが一つきっかけになるんじゃないかなと考えています。	—	文化振興課
交通・インフラ	5	ウォーキングコース上の保護について	共通	印旛や本埜など、案内する場所のコース設定は私たちがしていますが、「トイレの問題」がやはり一番大きいと感じています。もちろん交通手段など足の確保も重要ですが、歩いたり走ったりできるようにするためにも、途中でトイレがあると安心感が違います。整備されていれば、もっと「いいところ」が活かされるのになという思いがあります。 募集すると、参加者はほとんどが高齢者で、トイレの問題は本当に切実です。北総ウォーク、新京成、京成のウォークイベントなどでは、トイレの設置が充実しています。東京は特にトイレが多くて、しかもきれいです。 ただ、トイレは管理が大変で、簡易トイレでも維持していくことは難しいと感じています。それでも、「あった方がいい」というのが正直な気持ちです。	地域のウォーキングコースやまち歩きにおいて、トイレがあるかどうかという点は非常に重要だと感じています。これまで600人近い方々と意見交換してきましたが、今日初めてその点をご指摘いただき、「歩かれている方の視点だな」ととても納得しました。 トイレ問題については、検討が必要ですが、例えばバイオマストイレなども気になっているところです。詳しい仕組みはまだ勉強中ですが、自然に還るタイプのトイレが農園など在外来地区では導入されていて、意外とすぐきれいで驚きました。東京のトイレに近いくらい清潔で、見た目からして「バイオマス感」がないんですね。こうしたあり方は一つのヒントになるかもしれません。 各家庭がトイレを貸してくださるような形も考えられますが、防犯面などハードルが高いのも事実です。昔は、農家さんの外に水洗トイレがあって、まち歩きの途中に借りることもありましたが、今の時代は難しい部分もあるかと思っています。いずれにしても、トイレの課題は大きいと感じており、どのような設備が現実的で、地域の負担にならずに運用できるか、今後の検討課題としてしっかりメモさせていただきます。	—	文化振興課

分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
交通・インフラ	6	公共交通について	印旛	6月1日に実施予定の「初夏のウォーク」では、吉高や迎福寺方面を巡る予定です。集合場所は印旛公民館(中央公園付近)ですが、なの花バスや大成交通、レインボーバスなどは通っているものの、本数が少なく、アクセスに不安があります。ふれあいバスが通っていたかどうかとも定かではありません。 支所の方がふれあいバスの利用には便利ですが、現在は駐車場が使えないため、集合・解散場所の設定が難しくなっています。通常は駅や公民館を拠点にしていますが、今回はその選定が悩ましい状況です。 ふれあいバスについても、今後の運行形態の見直しが検討されていると伺っています。今回のような地域イベントの運営面でも、そういった交通課題を踏まえて検討いただけるとありがたいです。	バスには限界があり、印西では特に「縦の線」の交通が弱く、地域の人はあまり乗らないことが実情です。たとえば、なの花バスまで徒歩15分の場所に住む方がいても利用が進まず、高校生の通学利用はあるものの、地元利用の少なさが本数の減少につながっているという悪循環もあります。 そのため、一人300円程度で目的地へ向かえるような「乗り合い型のデマンド交通」のような形が、実際の利便性に合っているのではないかと考えがあります。ちょうど今年、公共交通政策計画の改定を行う予定で、その中でも、デマンド交通の可能性について話しているところです。 昨日は印旛日本医大駅から自宅まで歩いたのですが、70分かかりました。夜8時半にはバスの終便が終わっており、駅前にタクシーもない状態です。安全性の面でも課題を感じていて、そういう意味でも、今回のご意見には共感しています。	—	交通政策課
子育て・教育・文化	7	文化財の案内板について	共通	案内板があるとありがたいです。最近、巴塚の案内板がきれいになったのですが、観光などで地域を回る際、文字が消えていたり、更新されていなかったり、そもそも案内板がない場所もあります。私たちは案内役として話しながら説明するので案内板がなくても対応はできますが、実際には「もう一度歩いてみたい」という方もいらっしゃいます。そういったときに、案内板があると非常に便利だと感じています。	案内板の設置状況の確認を進めていきます。	—	文化振興課
産業・交流	8	観光案内板について	共通	観光協会には、駅を降りてからの案内整備をもっと頑張っていたきたいです。市内には駅が5つもあり、全てに観光案内所を設置するのは難しいかもしれませんが、少なくとも市役所のある駅に案内所がないのは残念に感じています。 例えば木下駅周辺では、少し歩いてみて「どこかでお茶でも」と思ったときに、案内がなくて困ってしまうことがあります。観光案内所や周辺マップ、おすすめスポットの紹介などがあると、訪れた人が安心して楽しめるのではないのでしょうか。	観光協会については、他の自治体との違いとして、観光業が儲かれば儲かるほど自分たちのお店も儲かるという方々があまり多くないという点が一番の課題だと思っています。観光については、観光協会に頑張っていたくことに加えて、民間の方々にも関わっていただけるような「関わりしろ」を作っていくことが大事だと思っています。 木下地区に関しては、まだまだ可能性が大きい地域だと思っています。駅前のにぎわい広場についても、公共の機能として、たとえば中央公民館がかなり古くなっているので、それを移転させるという話もあります。ただ、それに加えて「にぎわいづくり」と言ってしまうと月並みな言葉になりますが、民間の方々のお力もお借りして、地元の方はもちろん、それ以外の方々にも「行ってみたい」と思っていたくれるような、そういう機能をいくつか持ってこれないかと話をしているところです。それが、もしかしたらカフェかもしれませんし、それ以外のものも含めて、民間の知恵をお借りしたほうがいいのではないかと考えています。 さらに言うと、商店街です。今、日中開いているのは1店舗だけです。でも、あれだけ骨董市をやれば人が来るわけですから、場所としてのポテンシャルはあると思っています。今も住んでいる方が多く、皆さんそれほど困っているわけではないと思います。もともと昭和の時代に商売をうまくやられていた方々が多いので、うまくその辺を調整した上で、新しいお店、つまり市内で創業したい若い方々が活躍できるような場所を作っていけると、人の流れも少し変わってくるのではないかと考えています。	—	経済振興課
産業・交流	9	木下地区の活性化について	木下	木下駅前にぎわい広場の今後がどうなるのか気になります。また、木下河岸は歴史ある場所なのに、少し寂しい印象があり、地域としての活気がもう少しあってもいいのではと感じています。 船めぐりや七福神巡りなど、地域の魅力を活かした取り組みもありますが、最近は縮小傾向にあるような印象もあり、今後どうなるのが心配です。観光協会には、ぜひもう一度力を入れていただきたいと思っています。	今、市内で創業したいという若い方が増えているのですが、皆さんがまず言われるのが「場所がない」ということです。千葉ニュータウン中央駅や牧の原駅周辺の物件は、どこも少し規模が大きく、単価も高いので、すぐには入れないという声をよく聞きます。そういう方々が活躍できるような場所として、商店街やにぎわい広場を活用できればと思っています。 昨年のサマーフェスも1、2万人単位で、人があの場所に押し寄せました。地元の方々も頑張ってくださいいて、今は毎週末、広場でマーケットも開催されています。ですので、まだまだやれることはあると思っています。 今年度は担当職員を1人指名して、木下駅前にぎわい広場の利活用について検討してもらっています。その職員を民間のまちづくりスクールに派遣する予定で、その人を中心に、市全体として取り組んでいきたいと考えています。	—	都市計画課 都市整備課 経済振興課 資産経営課
市役所づくり	10	人事異動について	共通	歴史や文化に関する専門知識を持った職員が、全く関係のない部署に異動してしまうことがあり、「なぜその知識が活かされないのか」と疑問に感じています。たとえば、以前から生涯学習課の文化班には学芸員資格を持つ方がいて、私たちとも関わりがありました。しかし異動で、全く別の部署に異動されてしまいました。こうした事例は一人や二人だけではなく、新卒で入庁し、勉強を重ねて知識がついてきた頃に、次々と違う部署へ移ってしまうのです。あれはどういうことなのでしょう。	人事異動については、これまでは「いろいろな経験をさせたい」という考え方があったのだと思います。ただ、最近はやはり専門性が重視される時代になってきていますので、異動に関しても、たとえば生涯学習課や文化振興課にいた職員には、その後も同じような分野で活躍してもらえるような配置が望ましいと考えています。 人材育成の観点からも、たとえば文化振興課での経験を活かして、企画課やシティプロモーションなど、親和性の高い部署に異動していただくのが良いのではないかと考えています。実際、芸術祭の取り組みは現在シティプロモーションの一環として経済振興課で行っており、人の回流を生み出すという意味でも、そうした部署が適していると感じています。 人にはそれぞれ適性があります。一つのことを深くリサーチするのが得意な方もいれば、多くの人を巻き込んで物事を進めるのが得意な方、歴史や教育に関心のある方など、さまざまです。そうした特性や能力を活かせるような人事配置を行えるよう、今後はしっかりと留意していきたいと思っています。 これまでは、いろいろな経験を積ませて「何でもできる人材」に育てるという方針でした。使う側としては、どこにでも配置できるという意味で使い勝手が良かったのかもしれませんが、しかし、それでは市民の皆さんにとっては困ることもあると思います。やはり、ある程度専門性を持った職員が継続的に対応する方が、市民の皆さんにとっても安心感がありますし、信頼にもつながると思います。ですので、今後はその方針を大きく転換していきたいと考えています。	—	人事課

分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
まちづくり	11	ヘリテージツリーについて	共通	他自治体では「ヘリテージツリー」として、地域の遺産となるべき樹木にプレートを巻き付けて保護の意思を示している例があります。条例やルールの詳細は分かりませんが、そうした表示があることで、一般の人にも「これは大切な木なんだ」「簡単には切れないんだな」と伝わり、保全意識が高まると思います。 指定される木は、大木や太い木、希少価値のある木などで、市内にもそうした樹木が点在しています。アカデミー卒業生の中には市内の大木を調査している方もいました。全てとは言いませんが、その中でも特に大切にすべきものがあるはずです。そうした木を市として指定していただければ、私たち市民も見やすく分かるようになります。 以前、市が樹木調査を行ったと聞いていますが、それ以降、何か動きがあるのかと思っていたところ、特にそうした気配は感じられません。開発によって、ある日突然何百年も育ってきた木が伐採されてしまうこともあり、元には戻らないという現実に関心を痛めています。 他市では、そうした木々をマップにまとめて散策できるようにしている例もあります。お寺や個人宅の木は難しいかもしれませんが、路傍の木など、気づいたらなくなっていたということもあるので、ぜひ印西市でも検討していただきたいです。	「ヘリテージツリー」という言葉は今回初めて聞きましたので、私自身も勉強してみたいと思っています。 ちなみに、今、森をどうしていくかという広いテーマで話し合っているところです。森にはさまざまな課題があります。たとえば、光が入らないと光合成が起きず、地球環境への影響も懸念されますし、暗い森はイノシシの棲み処にもなっていて、実際に歩いていると遭遇することもあります。かなりの数が生息しているようです。 そうした中で、森をどうするかということは非常に重要な論点だと感じています。先日、武西地区の皆さんからご案内いただいた取り組みでは、白井市や印西市の職員、また市内企業の方々等にもご参加いただき、森の中でワークショップを開催しました。民間の方々も含めて、自然との関わり方を考える貴重な機会になったことと思います。 市としても、印西の自然をどう活かしていくかという視点は非常に大切だと考えています。	—	文化振興課 環境保全課
交通・インフラ	12	歩道の整備について	印旛	県道の歩道で、せつかく歩道があるのに、歩けないほど結構草生えていたり、めちゃめちゃになっていたりするようなことがあったりするんですが、そういうことはどこに言えばいいですか。	道路建設課から、県に伝えさせていただきます。	—	道路建設課